

平成28年度 「国有林モニターアンケート（第2回）」 調査結果

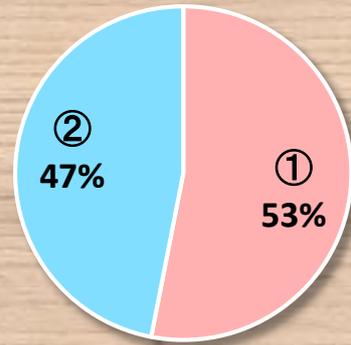
● アンケート調査結果

近畿中国森林管理局では、国有林モニターにご登録いただいている皆さまから、今後の国有林野の管理経営や広報活動の参考にさせていただくために、以下のアンケートにご協力いただきました。

1 森林レクリエーションについて

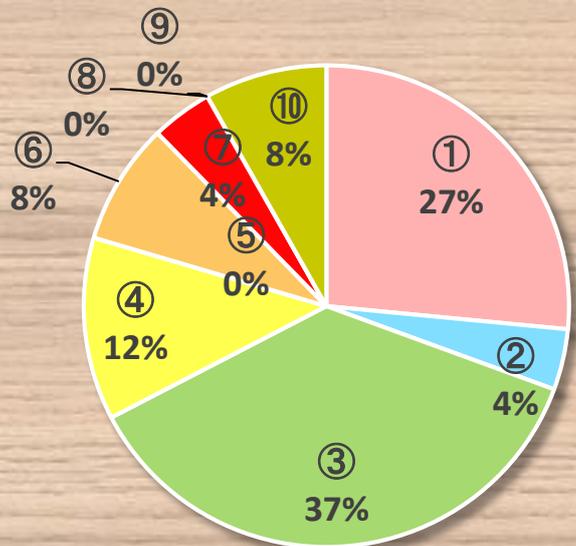
(単位: 人、%)

質問1	国有林の中には、山岳や湖沼などと一体となった美しい森林や野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」に選定し、広く国民に森林レクリエーションの場として提供していますが、ご存じでしたか。	
①	知っていた	26 53%
②	知らなかった	23 47%
計		49



(単位: 人、%)

質問2	山や森林に行く(行きたい)と思うきっかけになりそうなものを一つ教えて下さい。	
①	森林浴や森林セラピー	13 27%
②	登山	2 4%
③	散策・ウォーキング	18 37%
④	紅葉狩り	6 12%
⑤	トレイルランなど、登山以外のスポーツ	0 0%
⑥	野鳥や自然観察	4 8%
⑦	子供や孫との旅行、環境教育	2 4%
⑧	他の観光地のついでに訪れる	0 0%
⑨	特にない	0 0%
⑩	その他	4 8%
計		49

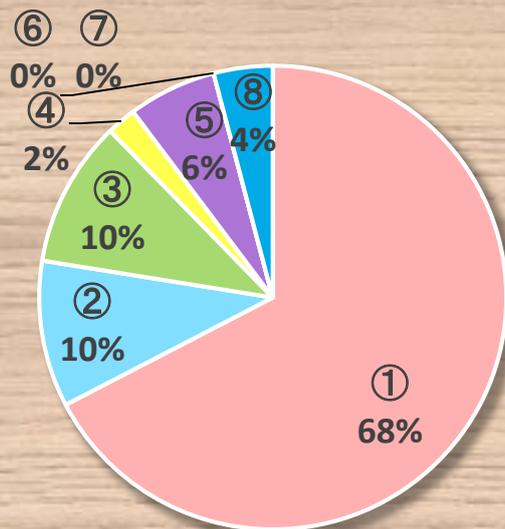


【その他の意見】

- ◆子供と行ける自然の中でのイベント
- ◆私自身、山や森林に行くことがあまりないので、わかりません。子供なり学校行事かもしれませんが。
- ◆スケッチ
- ◆星を見るため

(単位:人、%)

質問3 具体的な旅行先を決める際に決め手になりそうなものを一つ教えてください。			
①	風景や自然、文化財、食べ物など目的そのもの	33	68%
②	自宅からの移動時間(距離)や現地までの交通手段	5	10%
③	名所、名物等の目的めぐりの効率性	5	10%
④	旅行全体の予算	1	2%
⑤	とにかく日常生活から解放されたい	3	6%
⑥	特にない	0	0%
⑦	分からない	0	0%
⑧	その他	2	4%
計		49	

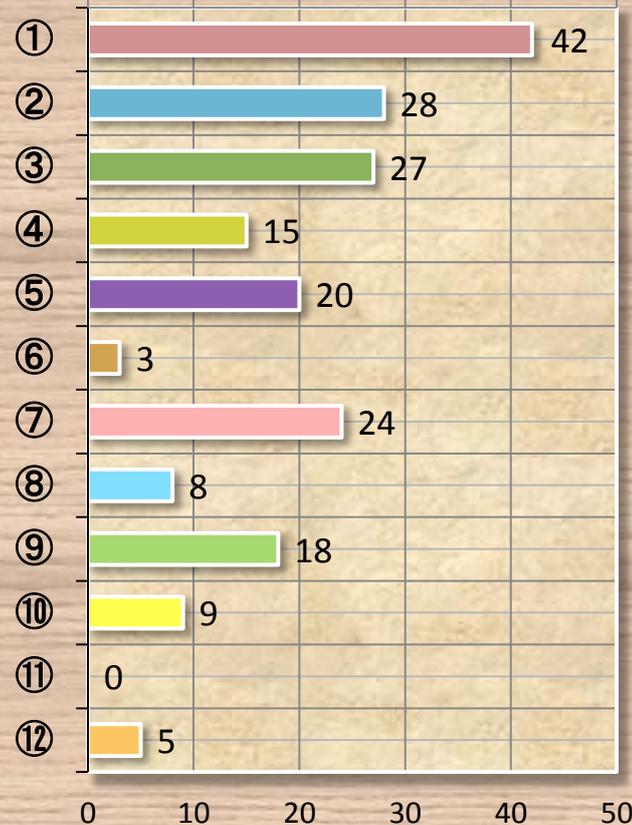


【その他の意見】

- ◆子供の興味があるもの
- ◆②と温泉やきれいな水があるか

(単位:回答数、%)

質問4 山や森林の観光地でもっと整備して欲しいことがあれば挙げて下さい。(複数回答可)			
①	清潔なトイレ	42	21%
②	案内標識	28	14%
③	遊歩道	27	13%
④	眺望の確保	15	7%
⑤	落石や土砂崩れの防止	20	10%
⑥	観光客の入山制限	3	2%
⑦	案内所や休憩所	24	12%
⑧	軽食・飲料	8	4%
⑨	パンフレットやホームページの充実	18	9%
⑩	自然のまま手を入れない	9	5%
⑪	特にない	0	0%
⑫	その他	5	3%
計		199	



【その他の意見】

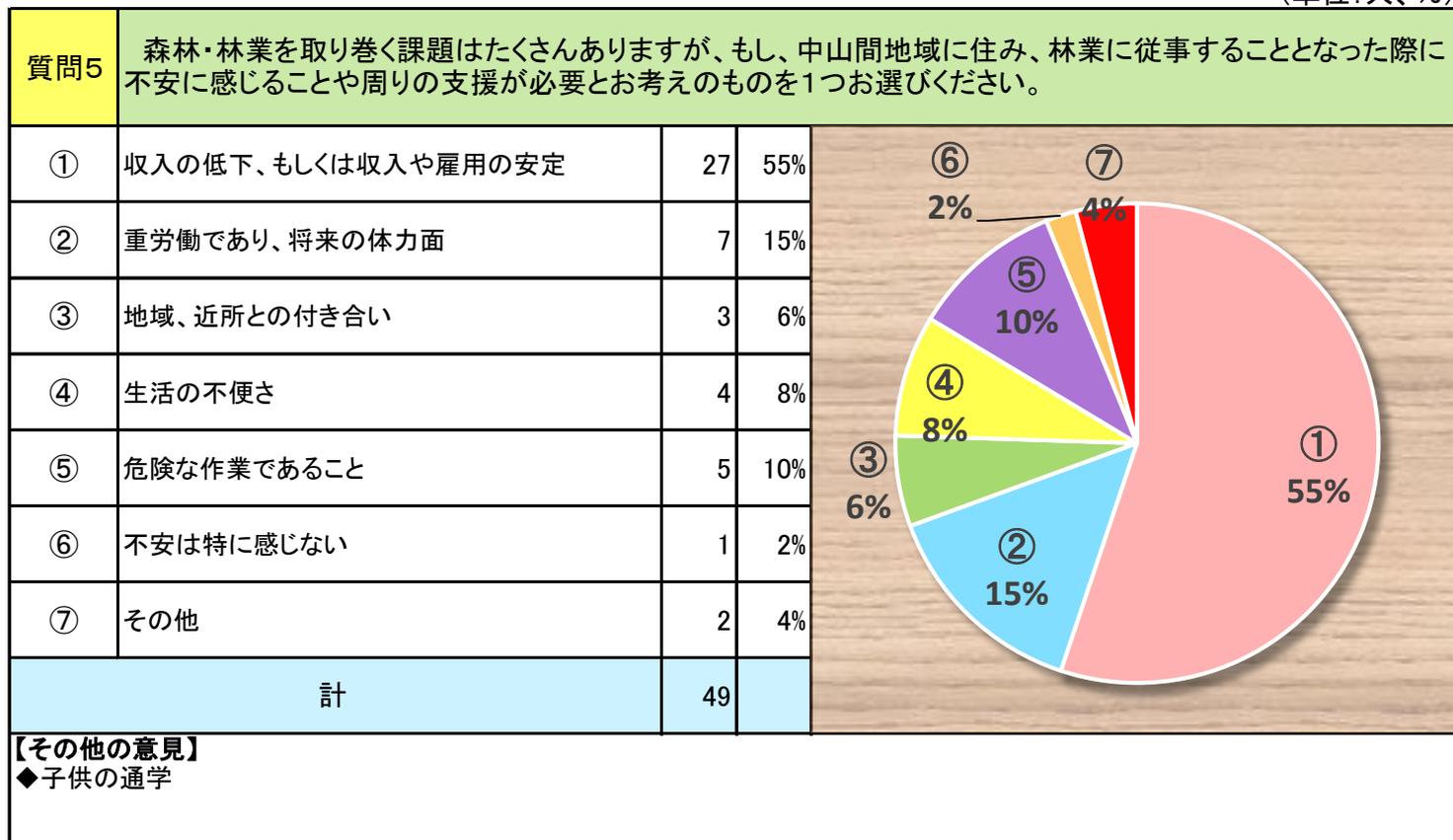
- ◆高速とか山中で、事故渋滞の時、女性は非常にトイレに困る。今年、自分が経験したので。
- ◆上記のもの、完全ではなくとも最低限は…
- ◆あまり行ったことが無いのでわかりません。
- ◆怪我等の時の緊急連絡用通信網
- ◆山小屋、茶店完備

※複数回答可のため、回答数としています。

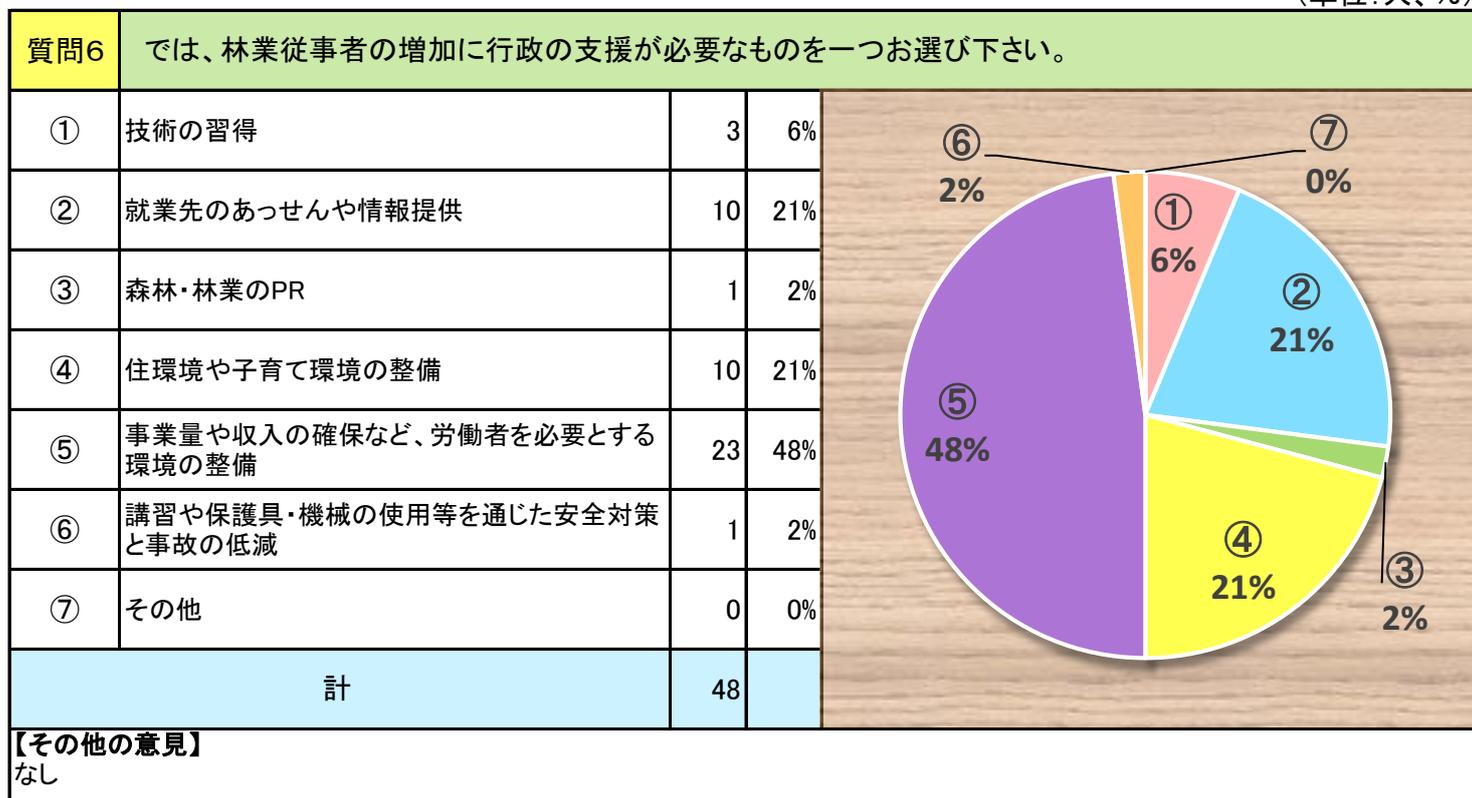
2 第1回モニターアンケート結果について

第1回のアンケートで「森林・林業を取り巻く課題はたくさんありますが、最も早急に取り組む必要があるとお考えのものを1つお選びください。」という質問をさせていただきました。その回答で最も多かった「森林作業の担い手確保」についてお伺いします。

(単位:人、%)



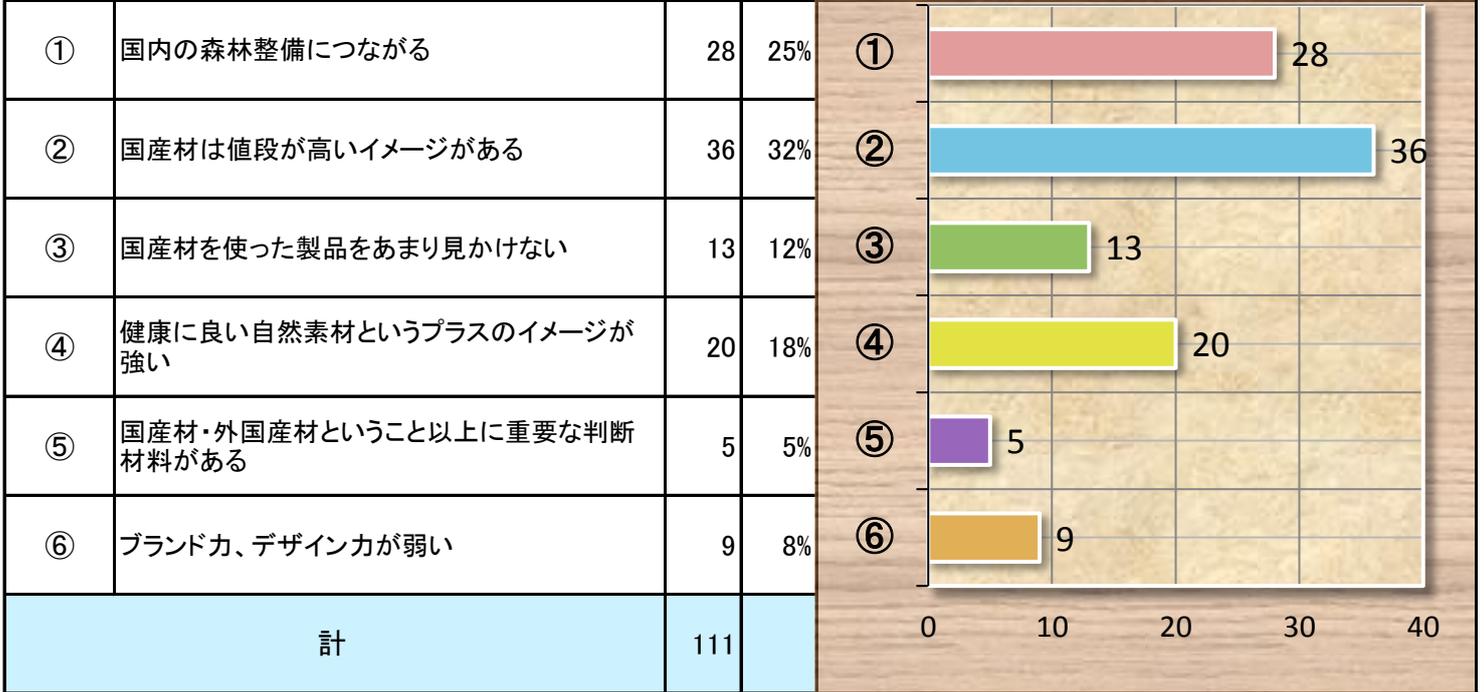
(単位:人、%)



※質問6以降未回答の方がいらっしゃいましたので、人数が1人減っています。

(単位:回答数、%)

質問7 第1回アンケートの質問2で「自宅や家具などを購入する場合にどのような購入を検討されるか」とお伺いしたところ、61%の方が「木材を積極的に使用した製品」あるいは「木造住宅を選ぶ」と回答されました。質問3では、さらに「国産材と外国産材で比較した場合、どちらを選択するか」をお伺いしたところ、41%が国産材、価格次第18%、品質・デザイン重視が31%という結果となりました。
このことから、国産材の可能性はもっとあると考えていますが、国産材のイメージとしてお考えのものをお選びください(複数回答可)

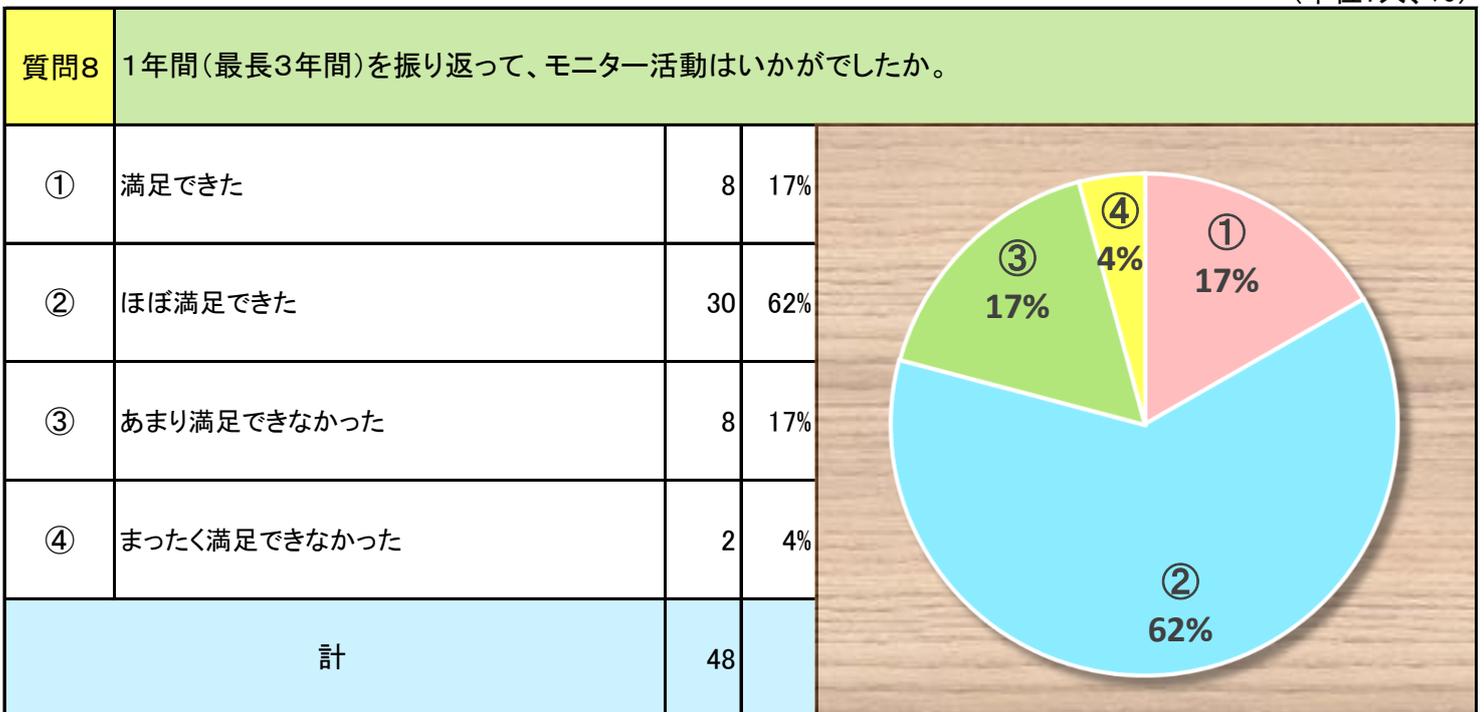


※複数回答可のため、回答数としています。

3 国有林モニターについて

国有林モニターの皆様には、広報誌「林野」や「森のひろば」などをご覧いただき、国有林の事業運営等についてご意見ご要望をいただいていたところ です。

(単位:人、%)



質問9

【質問8】の理由を教えてください。
(モニターになって良かったことや、物足りなさを感じたことなど)

【満足いただけた主な理由】

- ◆国として国有林の管理の状況が理解できた。
- ◆アンケートにカラーのイラストがあって気持ちがほぐれます。きっと自分だけではこんなには学べなかったし、努力もしなかったと思う。生活に直接役には立たないが世の中の人と話す事には大変役立ちました。知らない事が一つでも知ることはうれしいことです。大阪の建物を見に行けて良かった。福井県がモニター見学会の所になったことも。福井も森林のことは盛んにやっていますから、他県の取組と比べたり色々学びました。
- ◆林野庁職員からの国有林事業管理について聞いたこと。
- ◆知らなかったことが知れたし、送っていただく冊子が本当に楽しく、子供と「これ見たいね、ここ行こうか」と話したりしました。
- ◆林業従事者の苦勞が分かった。森を守るのは大変。
- ◆一般の方でもわかりやすく国民の視線で情報を伝えていることが良いと思います。できれば技術取り組みは多くの事をPRしていますが、自然との取り組みのため失敗等の事例も発生する場合もあり得ると思いますがそんな事例も記載願いたい。
- ◆今まで全く興味が無かった分野に目を向けるきっかけとなった。
- ◆日本の山林・森のことを色々知ることが出来ました。もっと知りたい、学びたいと思えました。
- ◆毎月広報誌を送付していただいたおかげで、森林について以前よりもっと興味を持ってました。また、資料のおかげで現在の日本の森林に関する課題等を知ることが出来ました。
- ◆現地見学会で、多くのことを学べた。
- ◆毎回、写真の美しさに圧倒されました。
- ◆モニター会議にも出席出来、生の現場を見られてモニターをやっている実感が湧いた点。
- ◆自分があまりにも、自然に無知もしくは勘違いしていたことに気づいた点。
- ◆一度だが視察に参加できた。
- ◆日常的に「森の広場」「こだま通信」を読んで、林業(自然)に対する興味・関心が自然に湧いてきました。
- ◆現在日本が抱えている課題や置かれている実情についての知識が増えた程度です。
- ◆いろいろな情報を入手することが出来た。
- ◆経験しなければ考えず興味も持たないような分野について知識が得られ、新しい発見がありました。
- ◆国内の森林資源について良く理解できた。
- ◆国有林が果たしている役割が分かった。森林から木材が切り出される時の作業の様子や、コスト面についてよく分かった。森林の果たす役割がよく分かった。
- ◆今まで、直接森林や林業に関わるのがなかったが、このモニターを通じて日本の林業を取り巻く環境や課題について多くを学ぶことができた。
- ◆知識向上
- ◆この機会に、草刈り、除伐、植樹、運搬、すべてを基本から教わる事が出来た。「もりメイト」として。
- ◆自分は山林所有者です。国産材の流通をはじめ、害獣対策などいろいろな知識が入ってくる事。
- ◆毎月資料が来ますので読んでます。興味がある方にも読んでもらっています。モニターですと、テレビ・新聞・その他メディアのニュースで森林関係があるとよく見えています。
- ◆森林に関する知識がついた。
- ◆広大な面積をもつ国有林を多様な目的に合わせ、いろいろな取組をされている点がわかった。
- ◆里山・森林等への興味が深まり、関連事項の知識欲も芽生え、実務経験もしたいという気持ちになり山林ボランティア等への参加も試みる。また、鳥獣害にも興味を感じ関連情報収集を図るようになった。
- ◆普段知ることのなかった国有林などの情報を毎月、冊子で知ることができた。森のありがたさ、次世代に森を残していく大事さを学んだ。

【満足いただけただけ主な理由】つづき

- ◆ 広報誌等で森林(国有林)の状況や林業を取り巻く状況等を理解するのに役立った。
- ◆ 林野等の配布された資料により、新しい情報や知識が得られたこと。森を歩いて森林管理署の見方が広がった。
- ◆ 現地見学で、林業を身近に感じられた。
- ◆ 肌で活動を知ることができた。
- ◆ 一昨年、10月の新見市でのモニター会議で林業の現場を見せていただき感動いたしました。また、驚くほどに進化した林業機械にも目を見張るばかりでした。雨天では仕事を進められないことなど、現場の厳しさも教えていただきました。
- ◆ 林野や森のひろばを送ってもらえたので勉強になった。
- ◆ 今の国有林の情報があり状況がわかった。
- ◆ 林業についての関心が広がった。
- ◆ 広報誌を読み、各地域での取り組みがよくわかった。
- ◆ 観光等で地域を訪れるのが楽しみになった。
- ◆ 読み応えがある内容で、自分の知識が深まることができた。
- ◆ 国有林について、知らない事が多いことに気づけたから。
- ◆ 色々と知れました。
- ◆ 「森のひろば」「林野」を通して、森林管理局の活動・取組・役割等が理解できた。また、課題があることも、分かった。山、森林についての興味が深まった。
- ◆ 日本の森林、国有林について詳しいことが知れた。課題がはっきりと理解できた。
- ◆ 国有林野の重要性を知ることができました。国産材を使用する取り組みが必要だと感じた。
- ◆ 林野庁がどのような取組をしているのかを知ることが出来た。家の近所に国有林があることをモニターになって知ることが出来た。
- ◆ 目立たない省庁だけど地道に仕事をされてることがわかった。
- ◆ モニターに選んでいただいたおかげで、森林の存在意義や国有林の現状を把握することが出来、とても良い貴重な勉強と経験が積めた。特に森林が生み出す財産である、山菜、きのこ、栗等々の食べ物や、木から作られる家や家具等々の生産現状やそれらが人々にもたらす恩恵をモニター参考資料等で知り得ることが出来、非常に有意義な学習生活を過ごせたという実感が湧いてきた。

【満足いただけなかった主な理由】

- ◆自宅近くで国有林やイベントについての事業が行われていない。(広報についても)
- ◆通信費は持っていたがなかった。まじめにFAX送った人とそうでない人との差があるとしたら不公平だと思う。林野の送られてくるのが1ヶ月遅いのでは。12月に送ってくるものはもう少し早い日になりませんか。福井での体験会が少ないのが残念です。あと、それが子供用だったりすると大人も参加出来たらなあ。大阪と福井の役所同士は連携とれているように思うが、一般との関わりも広く多くしてほしい。
- ◆意見交換の時間が短く、モニターの意見を全部聞いていないように思う。
- ◆活動が近くであったのですが、子供が学校で参加出来なかったこと。
- ◆地域範囲が大きいのは理解できるが、せつかくモニターにさせていただいたのだから、もっと積極的に会合の招集や意見の聴取をしていただければ嬉しかったです。あまりにもモニターに対する活動要請が少なすぎると思います。
- ◆これまで様々なモニターをしたことが有り、大部分はアンケートのみで終わる中で、様々な資料を送って下さり、視野が広がったものの、やはり近くでの見学やお話を伺う機会が無くて残念です。
- ◆モニター会議が遠方で行けなかった。現場に行きたかったので、府県単位で実施してほしい。
- ◆アンケートの回数が年2回でしたので、半年に1回という割合は少し少なすぎのではないかと思います。
- ◆現地見学会が年に1回しかない。
- ◆アンケート中心で現地見学会があまりない。
- ◆第1回モニター会議が台風の接近で中止になったことがとても残念に思いました。
- ◆現地に赴いての森林現地見学会が(1)遠くて参加できない(2)現地までの費用負担が大きい(3)見学会地が限定されているため参加できない人が多いと思われる。この程度の見学会でモニターに何を期待しているのか疑問に思います。
- ◆モニター会議に出席出来なかったのがとても残念です。自分の目で現地を見ることはとても貴重な経験と考えています。
- ◆現地見学会に参加したかった。(子供が小さいので難しい。)
- ◆早々の中止で、第1回モニター会議が中止になった。モニター会議が中止となっても事後処理として代替りの会議を持ち、モニターと貴局の意見交換が持たれていないこと。
- ◆モニター会議が中止になって残念。
- ◆もう少し、長期にわたった実践がほしい。
- ◆自分都合ではあるが、山口県への現地見学会に参加出来なかったこと。(台風の影響で実際は流会した。)これが一番楽しみです。
- ◆国有林の見学会と会議が出来なかったことと思います。これも「自然」な事ですので。
- ◆国有林を身近なものとして、まだまだ感じる事が出来なかった。また、大規模化によるデメリットがほとんど取り上げられていない。
- ◆国有林モニター会議が、台風のため中止になったことが残念でならない。
- ◆期待していた国有林見学会が台風接近のため、中止になり残念でした。安全面を考えたなら、仕方のないことですが。初めてのモニター体験で、モニターの仕事内容がよく分からなかった。詳しい年間スケジュールを当初に示してもらいたかった。
- ◆広報誌 林野の届くのが遅く参加したいと思ったイベントが既に実施日が過ぎていることが殆どで、残念です。月末に翌月号を送ることは出来ないのでしょうか？
- ◆モニターとして十分な活動が出来ていないと思う。
- ◆台風で現地見学会が流れたが、代替スケジュールを用意されなかったため。
- ◆活動回数がやや少ない。
- ◆国土の3分の2が森林であることを解っていない人々がなんと多いのかと思います。そのことを子供時代から教えていただかなければいけないと思います。私自身の反省を含めて広報をよろしく願いいたします。
- ◆森林を身近に感じられない。
- ◆自分の知識不足で、目新しい内容ではあるが、理解するのに時間がかかった。

【満足いただけなかった主な理由】つづき

- ◆いただいた資料を、十分に読み込めなかった気がする。冊子の内容も多岐に渡っており、自分の中で、系統立てて整理が出来なかった、と思う。現地見学に期待していたが、叶わなかったことも、残念だった。
- ◆国有林は民有林とは一体化して考えられないこと。林業、森林としてひとくくりでは難しい。
- ◆国有林の現地を拝見する機会が、モニターが参加できるよう増やして欲しい。例えば、県単位です。
- ◆毎回、沢山の資料が送られてきて戸惑った。モニターには吟味して資料を送付してほしいと思った。
- ◆モニターに選抜後、不満と感じたことはほぼ皆無です。出来ればモニター生活を通じて、1, 2度は管理局主催の森林現地訪問視察に参加したいと感じましたが、日程がうまく調節出来ずに不参加に終わったことが心残りです。また、現地見学会ではなくても、森林にまつわる講演会等を会館等の施設で開催していただければ、是非聴講してみたいと感じました。

質問10

国有林モニター現地見学会で、訪れてみたい場所や見学したい内容がありましたら、お聞かせください。

◆東山風景林(京都)

◆地元福井の気比の松原でも新しく知ることが出来たので、逆に観光ぼくくない面から知ることが出来たようなことが有れば、どこでも行って何でも聞きたいです。「一丈野」も良かったですよ。昔行った將軍塚も。きっと個人では行かないところを教えてもらったし、知らなかっただろうと。地元の森林組合と国有林モニターになった人たちが、もっと気軽に質問できたり、資料を送ってくれたりしたらいいなと。昔はあった。大野市でセミナーというか会議のあった年は参加出来て良かったです。

◆国有林でバイオマスの施設

◆親子で行ける所があれば

◆自然と温泉のコラボ

◆住んでいる地域の近くだと、より興味が持てるのでは。

◆府県単位で、現場見学をしたい。

◆京都在住ですので、京都の森林についてもっと詳しく勉強できればと思います。見学だけでなく、実際に体験できるとなお良いと思います。

◆林野9月号(NO.114)で照会された京都府京丹波町(住んでみたいと思った所です。)

◆アンケート用紙の絵のような現場に実際に訪れて、色々なものを見たり話を聞いたりしたい。

◆バイオマス発電施設

◆第1回モニター会議が台風の接近で中止になったので、ぜひ来年のモニター会議では、もし私が再任されたら山口の国有林を訪れて国有林の発展のために、何かをつかんでみたいです。

◆森林と水との関係に絞った内容を取扱い、かつ両者がうまく関連づいている場所がないものだろうか。私見だが森林=空気浄化=水資源確保=海洋体系への影響と、森林は生命維持に欠くことのできない存在だと認識しています。

◆京都の山々

◆国有林モニターをしていなければ、国有林を知らなかったと思います。広報に気をつけて、まずは参加することだと実感しました。

◆鳥取自然休養林に行ってみたかったです。

◆森林の伐採現場、治山対策、植林されている山

◆実際に林業機械が活躍している現場、また、CLTの製造工場

◆やはり、いろんな機械を使用している現場を見たい。

◆鳥取県のどこか

◆国有林の場所につきましては、都市部に近い宮島、呉、岩国(岩国城の近く)と、個人でも行きやすい所よりもっと交通の便が不便な所をと思います。内容につきましては、実際森林活動している時を見たいと思います。

◆水源の森

◆山として理想と私が考えるのは、複層林ではないかと思います。このような施業がされている広大な山を見てみたい。

◆小規模での自伐林業が参考になるような枝打ち技術(北山杉枝打ち)、伐採技術、搬出技術の現地見学。

◆広島県or島根県の国有林

◆長伐期施業、極相林、林道を整備中の森林

◆ダム湖関連

◆日本アルプスの森林保護、山小屋の関係

◆林業遺産の見学

◆国有林を加工する工場。私は、滋賀県在住なので、できれば隣接の府県の範囲で。

◆関西近県で、まだ知名度が無い国有林がある場所

国有林モニター現地見学会で、訪れてみたい場所や見学したい内容のつづき

- ◆治山ダムを見学してみたい、と思う。また、間伐作業の現場、伐採された間伐材の搬出作業に興味があるので、その現場の見学もしたい。広島の土砂災害から丸2年、防災対策としての治山・間伐がどのように行われているのか、知りたいと思う。
- ◆レクリエーションの森や活動内容など、実際に訪れて見学してみたかった。
- ◆管理局内にあるレクリエーションの森の見学
- ◆一度、京都府南丹市に訪問したいと考えています。この地域には、水源かん養機能を保持する山林や、水質の良さを誇る「るり溪」もあり、森林にゆかりのある名所が点在しています。更に森の恵みでもある、紫ずきんや黒大豆、九条ねぎや壬生菜等の京野菜ブランドの宝庫であり、豊かな味覚を楽しむことも出来ます。森林が育む豊富な自然の息吹を満喫しつつ、森林の恩恵に感謝する気持ちで見学したいと感じる場所の一つです。

その他の意見1

◆3年連続お世話になりました。3年ぐらいつかっていますと、だいぶ知識を得ることも。それを他へ話したりすることも出来るようになりました。福井にも森林の取組はそばにいて目に出来る所ですから、あれが、このことかと確認できたり、比べたり出来ました。福井県敦賀よりもっと小浜方面へ行くと、若狭富士と呼ばれている青葉山へ行きました。ここが本当の南北の境界の地といわれて、植物の種が多種ある地だそうです。薬草、ハーブを作り、医食同源の地にしていくなさそうで、青葉山中で高床式のハーブクラフトづくりやハーブの食事が出来ます。木の建物はいいですね。電気のインテリアにも木が使ってあった。12/16には福井で積雪がありましたが、12/22頃は20℃ありましたからね。新潟では強風で大火がありましたね。江戸の火事みたいで、平成の世でこんな大火事があるなんて。ポストこしひかりの名前は3月に決まります。30年後北陸新幹線は小浜から京都に正式ルートになりつながることとなりました。はたして生きていられるでしょうか。せいぜい木材利用を呼びかけて下さい。新北陸トンネルも採掘中ですが、原子力の災害対策でも防災帯としてきられたり、免震棟つくるのに木が切られています。どんな形でも良いから有効利用を。建築家の隅さん、東京都につくるオリンピックスタジアムのイスも木材で作るとオーバーするので、どうでしょうかといったことに、各県などで負担してつくりあえば、みんなでつくったことになるからととってました。どうぞご協力を。伐木の日本の技術はまだまだそうですね。テレビでポーランドの選手権で見ました。日本人って繊細だと思ってたけど海外の人には勝てないのが残念。こちらも腕があがるようにご指導下さればと思います。地層や岩についても詳しくなりました。プラタモリのテレビ影響も。「林野」の中にも時々出ていましたので面白いです。林業系のテレビ番組、ニュースにも気にとめるようになりました。「林野」P13「CLT」なかなか仕事がコンスタントに入ってこなくて、週に止まっていることが多いとテレビで。毎日動いてコストがあうようになるといい。「林野」P16、17はいい感じの色合いとレイアウトで良かった。こんな感じだとみるかも。「林野」P18富士山の所から、私も富士山ボランティアセンターから投稿が縁で、毎年富士山の年賀状いただいています。しかし、たくさんのボランティア団体があるんですね。鹿などにあまり縁なさそうな感じの所と思ってました。競技用パチンコでバスを襲撃するニュースがありましたね。話は別口ですが、枝切するとき枝にロープかけるためにも利用されるんですね。テレビで見ました。訓練しないと出来ないそうですが。気比の松原の体験を敦賀の隣の美浜という所が募集している短歌会に送りました。郵便局が募集したのにも。印象がいつまでも残りますように。そして、願わくば入選しますように。毛利家の「三本の矢」は事実ではないけれど、気比の松原の苗木三本ずつ植えた時代があって、スクスク育っているのは真実ですからね。気比の松の樹皮がむきむきだったのは、ふすまや屏風にかかれたものよりすごいリアルでいいなと思いました。天然のキノコや鹿肉、猪をたべるチャンスに恵まれたことは良かったと思う。実際食べるとジビエということにもっと実感的に考えられる。オリやワナや生態系のことまで聞いた上で、キノコも毒かもしれないというビクビク感のない中で、天然物を食べられて栽培ものとは本当に違うなと実感が出来ました。ヒノキのサイコロ型に水すわせてボールに入れておくと湿度が保てていいそうですね。ヒノキの風呂がドバイや中国のマンションなどで人気があるそうですね。でも、ドラマでヒノキの風呂掃除は大変だと言ってましたけど。ドバイは乾燥するのでタテヨコ二重ばりにして、割れないようにしたそうですね。オリンピックスタジアムが木製になったことは、森林に対してのシンボリック的役目を果たしていくと思うし、オリンピック後も森林の活動のシンボルとしても活用されたら人々に分かりやすいと思う。福井～京都の北陸新幹線の事にも関わってほしい。今年は、12月下旬になっても20℃ぐらい上がるという、福井県でも真っ先に白くなる「白山」は、うちの近くからの眺めは遠近的にもちょうど良いパノラマです。絵になりそうな富士山に負けてないです。指窓をつくって、それを通してみると素晴らしいと思います。白くならないことがないように願います。「林野」P6、7の重機開発がこんなに進むとは思わなかった。林業は採算あわないとずっと放置だったのに、今は取組も積極的になったと思う。「林野」P7福井県で育樹祭があったときは、林業重機などの展示などはなく、ここ10年内で展示傾向も変わってきたなと思う。開発が進んだと感じる。

その他の意見2

◆私はたぶん3年間モニターをしたと思います。お世話になりました。同時に農林水産省の消費者モニターも依頼があり7年は継続しています。3年間のくぎりはいかなものかと思います。モニターの役割は林野庁の分野への理解と意見だと思います。モニターをうまく利用して貴省庁事業に利用して下さい。職員の皆様の誠実な対応は素晴らしいと思いました。また、どこかでお会いしたいですね。

◆失礼ながら質問8でも記載しましたが、全くモニターをした実感がわきません。選定していただいたのですから、できればもっとたくさんの機会をいただければ、モニターになった実感および林業の実態などについて理解できたと思います。お送りいただく冊子を読むだけでは消化不良気味です。

◆たくさんの資料で、様々な取組や課題を知ることが出来ました。ただ、じっくり読ませてもらうものの、大半はその後紙ゴミ（資源ゴミ）になってしまうのが正直な所です。以前、予算の関係で広報活動に制限があると読んだと思うのですが、モニターへの資料配付を最小限にすれば、広報活動をもっと積極的に行うことが出来、森林・林業施策の推進について幅広く、様々な人々から興味・関心を持ってもらえるのではと思います。

◆今年初めて国有林モニターをしましたが、1年を通して広報誌を送付していただいたため、森林について知識を深めることが出来ました。今年1年間ありがとうございました。

◆四方を山に囲まれた実家。木を伐採し、その木に縄をかけ山から一本一本引きずり降ろし、一定の長さに切って町の製材所に売る母の姿を見て育ちました。そのおかげで高校にも進学出来たのに、山から出たくて18歳で故郷を離れてしまいました。「林野」で木材伐採の記事に触れるたび、当時を思い出しまぶたをふくらましたものです。また、今回のモニター資料で、岡山県の小さな田舎町に国有林を見つけたときも胸が熱くなりました。当時から手入れがなされていたんですね。何度か遠足で訪れた記憶があります。モニターを経験して一番びっくりしたのはシカ被害です。捕獲して食用に回せないものでしょうか。田舎では捕獲したイノシシを集落の男衆が解体し、わが家も肉を分けてもらっていました。貴重な蛋白源でした。同じような話を奈良出身の方に聞いたことがあります。ただ、今はシカを解体出来る人がいないそうです。ジビエの有効活用を期待しています。情報誌「林野」は読みにくかったです。「森のひろば」も全体に活字が多く理解しづらいものでした。でも内容はとても充実していて勉強になりました。とっておきレシピを参考に料理も作りました。きのこが乾燥、冷凍できるのを知ったのもこのコーナーでした。（安いときに買って冷凍しています。）ふるさと納税の「丸太」にも心が和みました。読みづらい「林野」を読みやすくしてくれたのは、ミス日本みどりの女神飯塚帆南さんでした。私たちと同じ目線で見て感じたことを発表してくださっているからでしょうか。記事がとてもわかりやすかったです。森林作業の担い手確保について、私たちは定年退職を迎えた夫婦です。定年時、選択肢の一つに農業はありましたが、森林作業の担い手は考えられませんでした。転職等で若い人に勧めるのは難しいように思います。第一に生活の不便さです。収入の低下もあります。やはりここは積極的な「林業大学校」のPRで、確実な担い手の確保が一番ではないかと思いました。今回のモニター経験で近畿中国森林管理局を知ったことを誇りに思っています。いただく文書に事務的で無いものを感じていました。木づかいならず、気づかひにあふれていました。モニターである私たちをとても大事にしてくださいましたように思います。インターネット、ファックスのない環境下で十分な回答が出来なかったことをお許し下さい。送っていただいた資料は、モニター期間終了後も家事の合間合間に読んでいき、知識を増やしたいと思っています。また、日々の生活では積極的に木の製品を求めていきたいと思っています。将来、ペレットストーブを居間に設置することが私の夢です。一年間お世話になりました。

◆3年間モニター活動をさせていただき、皆様方には本当に感謝しております。ありがとうございました。

◆季節に一度程度現地見学があるとより深く理解できると思います。

◆国有林モニターを経験して、日本ではお金を出しても買えない国有林という日本国民共通の財産があるということを改めて自覚しました。そこで、国有林を将来にわたって、きちんと整備し残していかなければならない思いを痛感しました。特に「こだま通信」を読んでみると、以前にも増して「森林環境教育」に力を入れている小学校・中学校が増えてきていると思います。これらのことは、これからの国有林の発展にとっても大切な事だと思います。

その他の意見3

◆長い間勉強場をつくってもらいありがとうございました。少し、内容や記事が硬い所もありましたが、自分なりに理解しながら読み続けました。遠くにあった近隣の山々が本当に大切なものだということがわかりました。これからも山に向かって話しかけ続ける事でしょう。実践の伴う生活も安全を考えながらやって行きます。記念品、大切に今も使っています。うらやましがられています。もう沢山の資料が来なくなると思うとさびしくなるなあ。

◆今回のアンケート用紙はイラストが多かったですね。いい企画だと思います。「質問2」の森林に行くきっかけは重要な設問だと思います。多様性ですので、いろいろな答えがあると思います。森林についても「行かなければ興味が無い」、「興味が無いと行かない」とも言えます。広報は重要と思います。登山、森林浴、セラピー、観光と多くの人々が利用していると思います。山の日が出来たのもいいものと思います。森林の観光は、昼間の風景の美しさ、気分のリフレッシュ、星空の美しさもあります。(都市部での100倍ほどの星が見えます。)
「質問5」について、新聞の記事でも時々読んでいます。高齢化や次世代の問題もありますが、1ターンUターンでの農業支援はよく見ますが、林業の方はどうでしょうか。

◆高効率、大規模化の林業が適した森林での施業はそれが良いと思います。しかし、日本全域がそのような山ばかりではないのも現実です。広葉樹が良いところ、皆伐が良いところ、しかし、これらのいずれでもない50年生の人工林で傾斜の急なところも多く存在するはずで、ここを皆伐すると、50年元の姿には戻りません。現実的には植林してもシカの被害がひどく、その対策をする費用は捻出できないと放置が多いと聞きます。また、ゲリラ豪雨に対しての保水力も全く対応出来ません。皆伐エリアに20~30年豪雨が無ければ良いのですが、まずそんなことはありえません。ですから、日本は西欧諸国と違い、雨が多く、山は急なのですから、ヨーロッパの林業は参考とする部分は多いが手本とはなり得ないと考えます。であれば、日本の山々はどのようにして将来と今を鑑み、林業を進めるべきかを国有林ではやってもらいたいです。

◆国有林モニターと並行して、林業の実務技術を学ぶために造材、地引方式による集材搬出等の技術講習会にボランティア参加し、林業に対する理解度を高め地域貢献になるための活動をしている。しかし、知れば知るほどこの業界は、重労働で危険が付きまとう割にはリターンの少ない業界であることを感じる。末端の小規模森林事業者までが、適切な対価があり、安心して仕事に従事ができる業界の環境を作らないと、将来の豊かな森林作りは出来ないのではないかと感じている。

◆1 冊子「森のひろば」について

以前にも指摘したが、紙面の刷新が必要。読む人のことが考慮されていない。主要な読者は誰なのだろうか。担当者の熱い思いが紙面からうかがわれない。前号と同じようなスタイルで、「あつ」と好奇心がわく記事が少なすぎる。

12月号を例にとると、紙面の顔である1面がいただけない。特に下半分。文字ばかりで、字も小さく、見ただけで、読む気にならない。1行が50字もある文章は読みづらい。2段組にした方が良いのでは。写真を大きく載せ、魅力ある紙面に。

3Pは小さな写真が多すぎる。数を少なくして、大きな写真を載せた方がよい。5Pの写真の上に多くの文章をのせるスタイルは、ちらちらして文字が読みにくい。

他の模範になりそうな冊子を研究して、読者に愛される「森のひろば」を編集してもらいたい。

2 みどりの女神について

毎年、みどりの女神を選定し、さまざまな行事に出向き、広報活動を推進することは良いことである。以前、情報誌「林野」で、みどりの女神が出席した植樹祭の写真が掲載されていた。それを見ると、山の中で、みどりの女神がハイヒールを履いて植樹をしていた。驚いた。山の斜面でハイヒールとは。担当者がその場にふさわしい靴を事前に準備すべきでは。

3 アンケート用の切手が貼られた封筒

原則、アンケートはインターネットを推奨して、ネット環境のない人のみ、封筒を送ればよいのでは。無駄だと思う。

◆今年山口県の現地見学会が中止になってとても残念でした。天候不良での中止は止むを得ない事と思いますが、中止でなく延期や再計画をお願い出来ないのでしょうか？

現地見学会は、モニターを行う上で非常に重要です。実際に森林の管理や整備を行なっている方から現地で話が聞ける機会が何回かあっても良いと思います。

◆何よりも国民の意識向上が必要。国、地域の議員がやる気になっていないから現状である。森林税拡大を望む。

◆雑誌『林野』で時々紹介されますが、近年林業に興味を持つ若者や女性が増えていることはうれしいことです。林業が更に安定的な、そしてより安全な職場になることによって魅力的な職場になることを願っています。

その他の意見4

◆今年山口県の現地見学会が中止になってとても残念でした。天候不良での中止は止むを得ない事と思いますが、中止でなく延期や再計画をお願い出来ないのでしょうか？現地見学会は、モニターを行う上で非常に重要です。実際に森林の管理や整備を行なっている方から現地で話が聞ける機会が何回かあっても良いと思います。

◆現地見学会もいいが、もう少し森林レンジャーみたいな職員〈森林・キャンプ地等の管理〉を各地に配置し、森林を身近なものにして欲しい。

◆モニターをして、世の中を見ると考える力が養われました。私には得るものが大きく、貴重な体験ができ感謝しています。

◆間伐材を利用して猫砂やペレット等安く作ってほしい。昔のような林業は出来なくても、生活できるくらいのレベルにしてほしい。

◆林野庁の活動だけでなく、環境省、他省庁との役割分担の構図、事業内容の紹介など、総括的に示してほしい。国の縦割り行政、重複する事業などを改善していかなば財政的に国が破綻する。是非やってほしい。

◆今回のアンケートは、今までの堅苦しい文字ばかりのものと違い、とっつきやすかったです。アンケートの内容も、絞られていて回答しやすかったです。

◆森林環境税導入に向けての検討が本格化しはじめたというニュースを見ました。なぜ、森林環境税が必要なのかということについてのアピールが大切だと思います。まだまだ、「山の木を切るから土砂崩れが起きる」とか「木を切っても売れない。山なんて放っておくよりほかない」と言う人も多くいます。林業に関心を持つ若者が、林業に従事できるようになってほしいと思います。

◆1年間ありがとうございました。色々やっていることは、モニターを通じてわかるのですが、この活動がもっと広く伝わるといいなと思いました。

◆毎回、本当に参加したいです。次回も・・・

◆本年度はモニター会議が中止となり、他のモニターさんとの交流が無かったため残念でした。いろんな方とご一緒すると、多方面からの森林の見方が見えてきます。（以前モニター会議に参加して気づいたことが沢山ありました。）どうしたら国民に森林の現状に目を向けてもらえるか、身近な森林の課題を話し合うだけでもモニター会議の意味があると思います。中止の場合は、近くの管理局でモニター会議もやってみてはいかがでしょうか。一年間ありがとうございました。

（3月までよろしくお願いします。）林野11月号感想。特に興味があったのは「レクリエーションの森へのご案内」でした。近くにこんな森があれば行ってみたいのですが、その情報があまり入ってこないのが現状です。もっと身近になればいいと思います。森林、林業、森林問題解決・理解のためにも、もう少し増やしていただければありがたいです。

◆「森のひろば」・「林野」について。

両者の明確な違いが分かり辛い。例えば、両冊子を一つにまとめ、内容でそれぞれのページを持つ等で、読者にそれぞれの役割の理解を、より促せるのでは、と思う。内容は、どちらも文字と写真での構成だが、文字の量が多く、また、専門用語が多く出てくることも、読むのに時間がかかる理由の一つなのかもしれない。一般に普及させるなら、毎回、少しずつ専門の知識・用語の説明を、意識して掲載するなり、試みてはどうか。小学生から年配者まで、手に取れる冊子であってほしい。

◆「山の日」について。

せっかく、「山の日」が制定されたにも関わらず、その制定の目的が、あまりにも周知されていないと感じる。「山の日」の制定の目的を周知することで、より山、森への関心を促し、興味を生むきっかけとなれば、素晴らしいと思う。このモニターを通して、森や木々の役割を学習するにつけ、この認知度の低さが残念でならない。8月11日は、児童・学生は夏休みの最中なので、一番制定の目的を理解してもらいたい年齢層には、なおさら伝わらない。せめて、行政を通じ学校に働きかけ、山について学ぶ時間が1時間でも確保出来たらと思う。

その他の意見5

◆間伐材の利用について。

木の温もりを感じさせる品は心和むものだ。また、安全で、自然の恵みにも触れることもできる。最近の子供、特に乳幼児のおもちゃの多くが、プラスチック製で電池を使うものであることに驚かされる。二十数年前、息子には出来る限り木製のおもちゃをと思ったが、一様にプラスチック製品より高価だった。特に、外国製品は驚くほど高い。木製のおもちゃを選びたくても、高価であれば手が出ない。間伐材を利用できないものか、と思う。未来を担う子供達の日や手に触れるものは、是非、国内産の木製品を推奨したい。「国内産の間伐材を使っている」と一言添えることで、親御さんの森林に対する興味が湧くことも期待できるのでは、と思う。また、薪ストーブがブームになりつつあると聞くと、例えば、市役所等は電気使用の暖房ではなく、薪ストーブに切替え、積極的に間伐材を使用する。おもちゃや薪の収益を、間伐材搬出の費用に充てることができれば（間伐材の搬出費用が大きく不足していると聞く）、間伐ももっと進み、結果、安全で健康な山を作ることで、防災に繋がることの期待ができると思う。

◆「治山事業」について。

平成28年度第2次補正予算では、熊本地震からの復興、「治山」「山林施設災害復旧」の名目が挙がっているが、「治山」について、全国的には、どのような予算の配分が行われているのだろうか。この「治山」が、復旧目的で行われているのか、防災目的で行われているのかによって、予算の付き方が変わってくるのだろうか。また治山事業は、森林整備事業と分けることで、予算が付きやすくなるのだろうか。治山事業がどのような基準で、順番で行われているのか、知りたい。

◆間伐への支援制度について。

この制度については、全く知らなかった。こんな有益な支援制度なのに、知っている人は、どのくらいいるのだろうか。我が家の近くの山の持ち主さん達が、山に手を入れるのを見た記憶がない。それはすなわち、災害に繋がってしまうかもしれない、という危険性があるということである。今は、行政機関のCMもあることから、支援についての周知を幅広く行うべきだと思う。また、間伐をしたくても、搬出の予算が付かない、と聞いたことがある。これは、本末転倒で、間伐の重要性を無視した考え方である。山が健康なら、災害も最小限に抑えられるのではないか。間伐についての法の整備が行き届いているのかは、疑問だが、少なくとも、多くの命を奪う災害の危険性があるにも関わらず、山に手を入れない持ち主がいるのであれば、行政が厳しく指導すべきだと感じる。山の持ち主の公開は、その第一歩だと思う。

◆モニターを終えて。

心残りばかりの1年だった。まず、森林管理局の仕事の範囲の大きさ、幅広さに驚いた。それなのに、人員が削減されていることへ驚きと怒り…。森林が適切に管理されてこそその、地球温暖化防止であり、防災である。「何事もなく当たり前」ではないのだと、毎月の「林野」や「森のひろば」を読んで感じた。長期的な展望と視野に立って、こつこつと、しかし確実な歩みを続けておられる林野庁に大きな感謝をしたい。その仕事の一端に触れることができたことは、幸せだったと思う。無学で、的外れな意見を書いたと思う。ごめんなさい。小さな疑問にも、真摯に答えて下さって、ありがとうございました。楽しくて、為になった1年でした。

◆一般市民にとって、国有林と県や市が管理する林、私有林の区別がつかず、例えば、歩道など壊れていて危険な箇所を発見した際、どこに連絡してよいのかわからない。国有林の場合、その出入り口の道に、すぐに誰もが「ここは国有林なんだな」とわかるような標識を作るなど工夫してほしいと常々感じている。また、私の家の近所にも国有林があることをモニターをやって知ることが出来たが、市や県の広報誌などを利用して「レクリエーションの森」など林野庁の取組を積極的にアピールしたら良いと思った。林野庁の真摯な取組をモニターを通じて知ることが出来て良かったです。ありがとうございました。

その他の意見6

◆森林のモニターを通して、森林における鳥獣被害の深刻さを痛感した。貴重な森林資源保護の為に、鳥獣退治を目的としたハンターの育成に尽力することが今後の課題となるのではないかと感じた。その配慮が将来の森林繁栄へと継承される森林の後継者作りへと発展するのではないかとと思われる。更にハンターが捕獲した鳥獣を有効活用した「ジビエ料理」の拡大を模索していただきたい。衛生面での問題を早期解決した野生食肉を調理したジビエ料理は、今後の食糧難を救う手立ての一つであり、豊かな食文化の広がりを予測できる可能性を秘めている。あえて、森林の自然の中での自然繁殖のみならず、森林エリアで食材確保目的における人手を加えた鳥獣の繁殖を試みてはどうかとも考えられる。中でも鹿の赤身肉は、味にクセがほとんど無く、むしろ他の食肉と比べても美味の範ちゅうにいたり、鉄分も含まれ栄養価も高い。脂肪も少なくヘルシーで、健康を気にする人々の助けにもなる。森林の恵みが食生活に多大な恩恵をもたらすであろう一つの例であることに違和感はない。そこで、一度森林フェスティバルをどこか適した場所で開催し、ジビエ料理フェアをイベント化していただけないだろうか。ジビエを味わい、その良さや今後の食生活を支える一部である食材の一つといった意義を感じれば、鳥獣の計画的育成や捕獲にも力が入り、食文化の広がりや食料難の克服、そして何よりも森林を鳥獣から守る体制が整うのではないかと感じる。又、鳥獣被害を抑制することは、鳥獣が食い荒らす植物の保護にも役立つ。森の恵みである栗や山菜等の繁殖を促す要因にもつながり、私たちの食生活にも恩恵となる。希少価値に匹敵する植物の保護は、私たちに課せられている命題と言っても過言ではない。他にモニターを通して考えたことは、以前と比べて木材に接する環境が徐々に少なくなっているのではないかという事である。都市や町が発展する程、その地域が占拠する構成建造物には、鉄筋コンクリートが用いられ、耐久性が増した分、木材を使用した建物はかなり淘汰されてきたように感じる。頑丈な鉄やコンクリート等には、地震や火事等の災害に強い反面、その構成要素である化学物質が引き起こす健康被害が問題視されている側面は見過ごせない事実である。故に、今一度、木材が生活に与えてくれる恩恵を省みて、その自然物質が私たちの生活に潤いと健康維持をもたらせる有難い存在であることに着目すべきである。そして、建造物をはじめ、生活空間に木材を積極的に取り込み、健康管理に大いに役立たせる事が肝要なのではないかと考えた。森林全体の発育を促進させ、希少木材や植物を育成し、森林から町や都会に木製建造物や緑の植栽を増進させ、森林から発信される自然の恵みを町全体に行き渡らせる事が健全な人間社会を構築させる基礎作りになるのではないかと強く感じた。要は、森林の大切さを皆で共感し、この自然を守り続ける事がまず必須行動項目であり、安定した森林保護育成が現実化することが肝要である事を学習できたのは自己の財産となったということである。この森林から受ける様々な恩恵を次のステップとして、町中へと移行させ、都市緑化計画に発展させ、いつも緑や木材に囲まれた健やかな生活へと実現化できれば素晴らしいと感じた。